

平成 28 年度 学校経営方針

I 平成 28 年度 学校教育の重点

1 京都市の学校教育・目指す子ども像

「伝統と文化を受け継ぎ、次代と自らの未来を切り拓く子ども」

- ・ 京都を知り、京都の魅力を発信できる子ども
- ・ 社会的、職業的自立を果たす子ども
- ・ 人権文化の担い手となる子ども

2 学校教育において重視する視点

「子どもの主体性と社会性の育成を目指して」

～「自ら学ぶ力」と「自ら律する力」を高める～

II 子どもの現状

1 地 域

- ・ 小学校への強い愛着（各団体・みまもり隊）
- ・ 地域行事の定着（自治連・体振・少補・女性会 等）
- ・ ゲストティーチャーとしての活躍（1 年…生活 3 年…社会 5 年…総合 他）

2 保護者

- ・ 子どもを大事に育て、学校に対して協力的
- ・ さまざまな子どもの活動を支える PTA 活動

3 児 童

- ・ 素直で、明るく、与えられたことにはまじめに取り組む
- ・ 5 つの行動目標に向けて絶えず努力をしている
- ・ 学力・学習状況は良好
- ・ 黄帽、ランドセル着用は、ほぼ 100% 名札の着用率も高い
- ・ 決められたことを守ろうとする規範意識は育ちつつある
- ・ 指示待ち傾向。失敗を恐れ、やや消極的な面も

Ⅲ 平成 28 年度 本校の教育目標

「豊かに たくましく 生きる子の育成」 ～学力の向上と社会性の育成～

1 目指す子ども像

「心豊かな子」

「進んで学ぶ子」

「体を大切にする子」

2 目指す教師像

「使命感と向上心を持ち続け、学び続ける教職員」

「チームワークを大切にし、共に学び・高めあう教職員」

3 目指す学校像

「自ら進んで学び、楽しい学習の積み重ねができる学校」（確かな学力）

「やさしさいっぱい、自分も友だちも大切にできる学校」（豊かな心）

「健康や安全の知識をもとに行動できる学校」（健やかな体）

Ⅳ 基本方針

1 「学力の向上」について

(1) 「確かな学力」の育成

- ・「豊かな学び」を通して「確かな学力」を
- ・学級集団を学び高めあえる集団に
- ・校内研究を核とした、授業改善（アクティブ・ラーニング等）
- ・1 時間 1 時間の「つきたい力」を明確にした授業
- ・「めあて」から「振り返り」までが整理された板書・ノート
- ・計画的・系統的・意図的な指導
- ・焦点化児童を中心に据え、様々な支援の必要な児童への適切な関わり
- ・研究成果の波及と応用
- ・学習規律の徹底
- ・家庭学習（学年×10 分）の定着

(2) 「自ら学ぶ力」の育成

- ・ 問題解決的な学習への転換
- ・ 少しがんばればできそうな課題を
- ・ 「わかるようになった喜び」「できるようになった喜び」を毎時間に
- ・ 小さながんばりや伸びもひろいあげる指導者の確かな目
- ・ 「やればできるんだ」をすべての児童に
- ・ 家庭学習の充実

2 「社会性の育成」について

(1) 5つの行動目標

「守らされているもの」からの転換・脱却

- ・ 相手の目を見ての挨拶（コミュニケーション力の育成，感謝の気持ちも）
- ・ 集会への参加の仕方（場に応じた態度の育成，自分で考え・判断する）
- ・ 廊下の歩行（安全に留意した態度の育成，廊下・渡り廊下の歩行）
- ・ チャイム前の行動（自主性・主体性の育成，チャイム5分前に教室に）
- ・ 清掃活動（責任感の育成，責任と分担）

(2) 「豊かな心」の育成

- ・ 人権教育・道徳教育を基盤に，いじめのない学校
- ・ なかまの日の充実
- ・ 自尊感情を高め，自他共に大切にできる態度を
- ・ やさしさと思いやりのあふれる学校に

(3) 「健やかな体」の育成

- ・ 体力の向上
- ・ 保健教育
- ・ 食に関する指導の充実
- ・ 安全教育
- ・ 防災教育の充実

V おわりに

凡事徹底

- ・なんでもないような当たり前のことを徹底的に行う

子どもはほめて育てる

- ・子どもの限界を決めてしまわず，限りない可能性を信じて

初志を忘れず

- ・はじめに思い立った希望や考え，最初の志を忘れずに

児童全員が「学校が楽しい」と答える学校を
